



令和5年度発達障害基礎講座

アーチルの役割と本人が地域で暮らすための  
連携・協働した支援について

## 2. アーチル相談の現状と課題

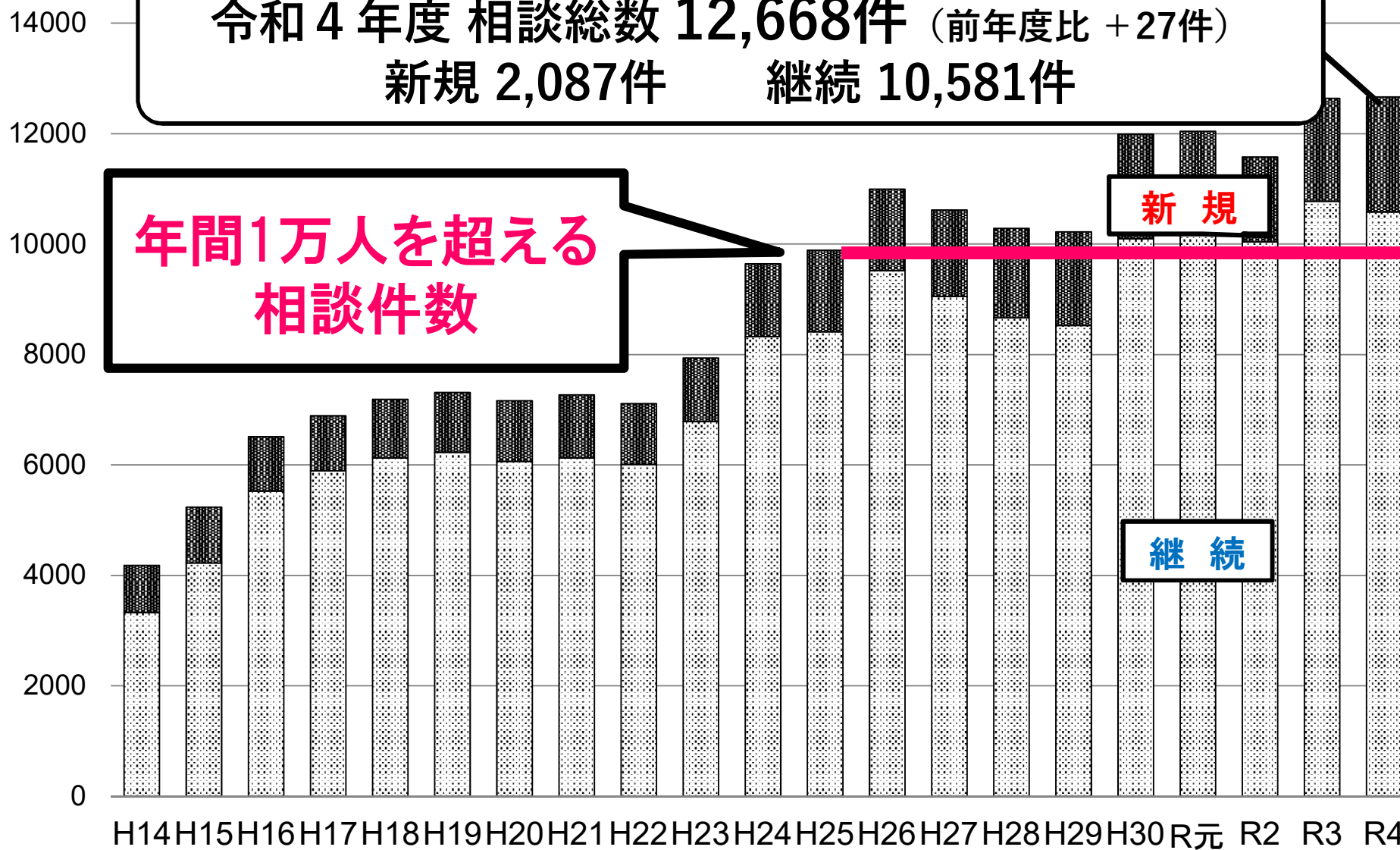
# 相談件数推移（全体）

令和4年度相談総数 **12,668件**（前年度比 +27件）  
新規 **2,087件** 継続 **10,581件**

年間1万人を超える  
相談件数

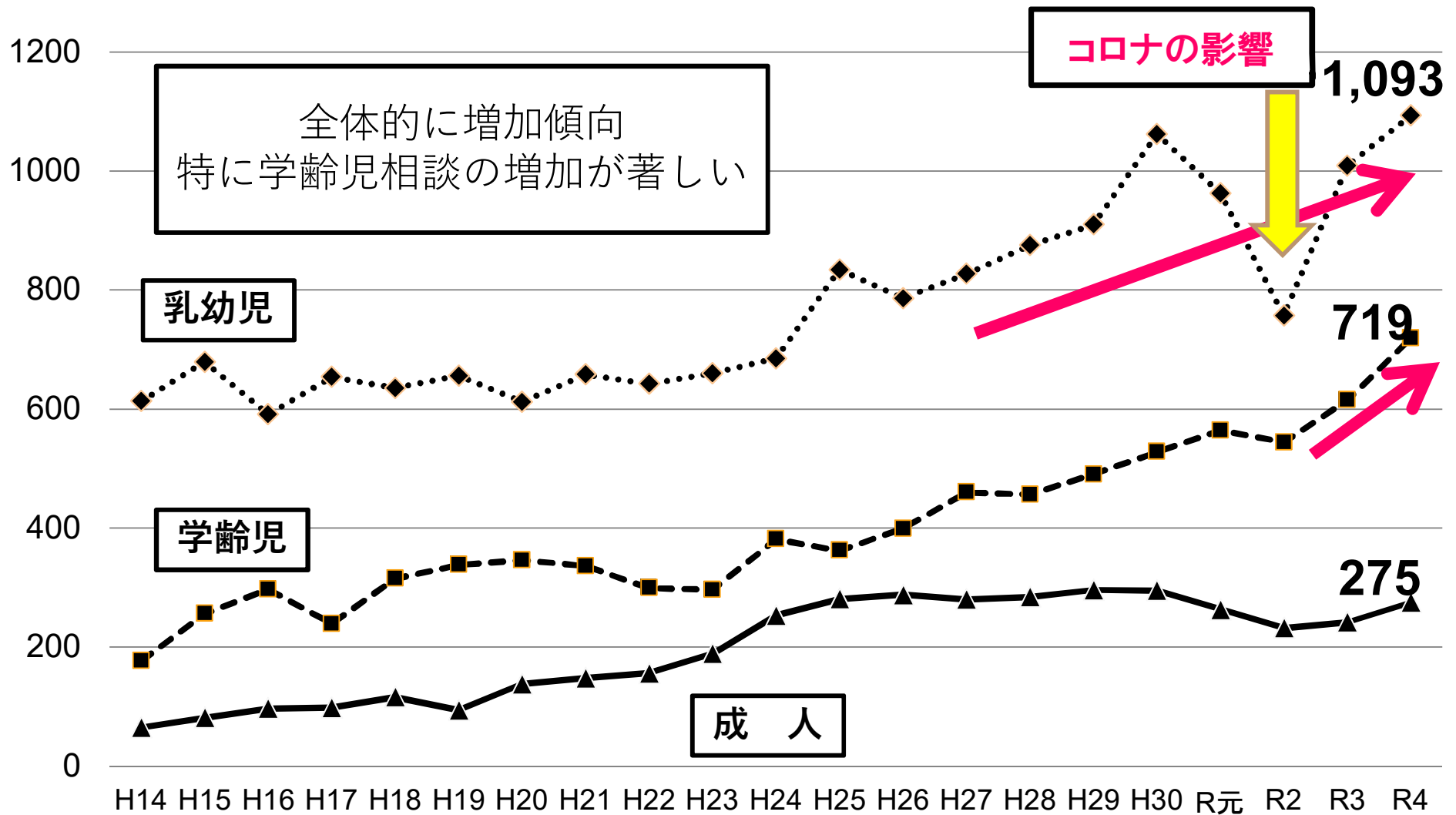
新規

継続



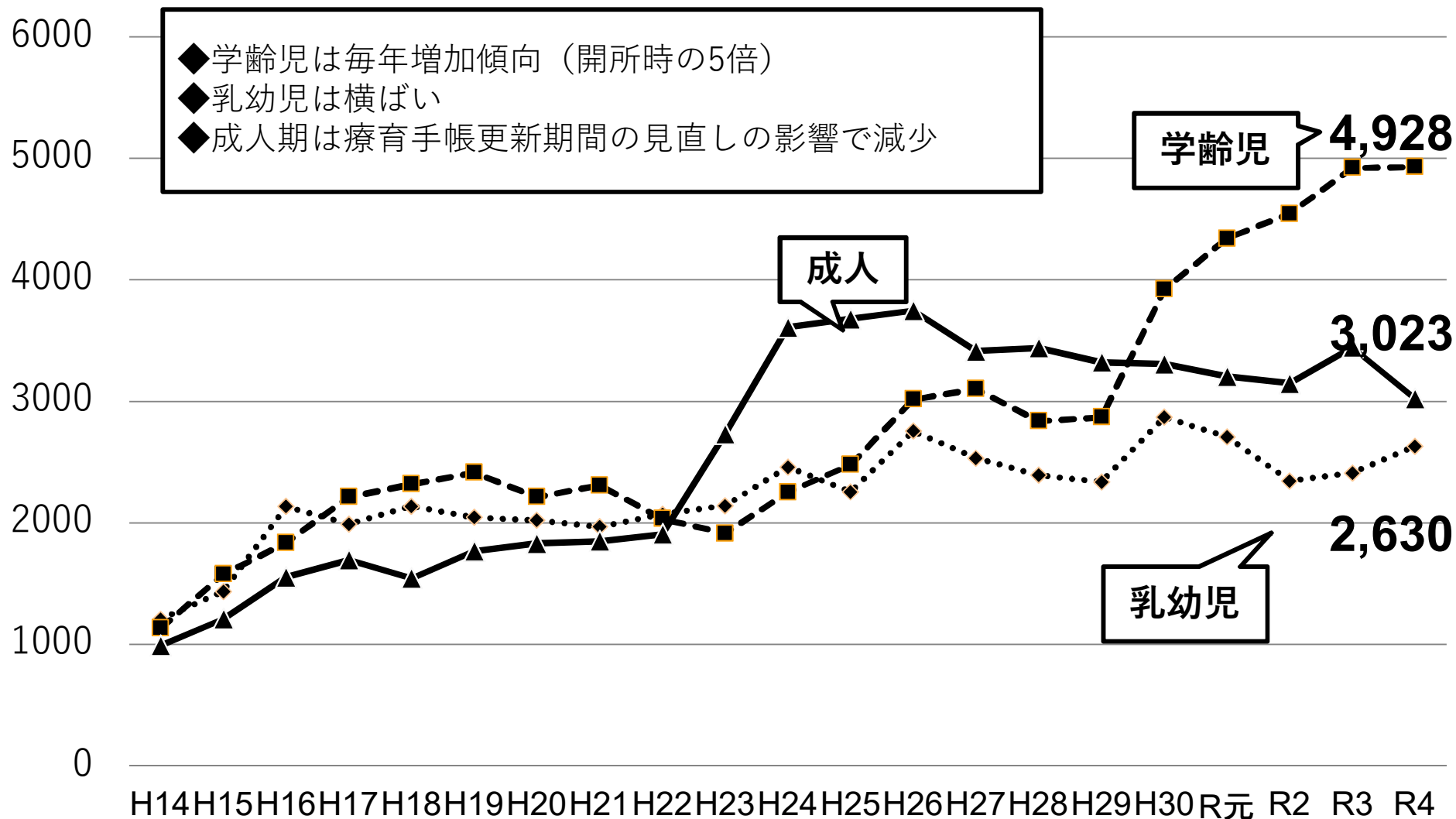
# 新規（初回）相談件数推移

（ライフステージ別）



# 継続相談件数推移

(ライフステージ別) ※保険診療含む





# 乳幼児相談の現状と課題

- 早期出会いはほぼ実現できている。
- 新規相談時、すでに保育所や幼稚園等に在籍しているケースが増加している。
- 多くの保護者が発達障害について調べて来所しているが、氾濫する情報に混乱している場合も少なくない。
- 知的障害や発達障害の特性が顕著ではなく、障害特性が分かりにくい児の相談が増えている。
- 養育上の課題を抱えた家庭の増加、DV・虐待等が複雑に絡み合っている相談も増加している。



## 学齡児相談の現状と課題

- 新規相談の大半は、通常学級在籍の児童。学校での不適應や不登校などを背景に発達障害を心配しての相談が多い。
- 発達特性は顕著ではないが、メディア過多や生活習慣の乱れ、叱責などの不適切な対応による2次的な問題から生活支障が出ているケースが増えている。
- 知的な遅れのない発達障害児からの、福祉サービス利用希望が増えている。
- 虐待や触法、不登校等問題がいくつも絡み合い、アーチルのみでは支援困難なケースが増えている。
- 重度の知的障害を伴い、自傷他害やパニック等の行動障害を二次的に生じているケースも少なくない。



## 成人相談の現状と課題

- 就労継続困難等から、自ら発達障害を心配して来所するケースが新規相談の6割を超えている。
- 継続相談が多く、中でも高校卒業後～20歳代の相談が急増している(相談できる地域の社会資源が不足している)。
- 触法、長期引きこもり、家庭内暴力、精神科系疾患併発等、問題が複雑に絡み合った対応の難しいケースも増えている。
- 医療的ケアを必要とする重症心身障害者や、行動障害等の重度の障害を持つ方々の住まいの場や支援の担い手が不足している。